

森林管理署と地域をつなぐ取組について

米代東部森林管理署 業務グループ
森林技術指導官

○大野 由英子
佐藤 博志

1. はじめに

米代東部森林管理署は秋田県北東部の米代川上流域に位置しており、大館市、北秋田市、鹿角市および小坂町の国有林を管轄している（図 1）。ここは、日本三大美林の一つといわれる天然秋田杉に代表されるような森林資源に恵まれ、古くから林業や木材産業が盛んな地域であった。たとえば、緻密な木目をもつ天然秋田杉を原材料として用いてきた大館曲げわっぱは、伝統工芸品として広く知られている。



図 1 米代東部森林管理署管内

このような背景から、地域には森林や林業について学びたい、親しみたいといった声や、それらにかかわる文化を伝えたいといった多様な要望がある。当署は、そのような様々な要請に応え、国有林をフィールドとして提供したり、森林や林業とのふれあいの機会を提供している。本発表では、それらの署と地域をつなぐ取組について報告する。

2. 米代東部署の取組

地域の子どもに対しては、スギのクリスマスツリーの配布、森林教室や職場体験学習の取組を行っている。また、地域の人々へ「ふれあいの森」や「木の文化を支える森」といったフィールドを提供している。くわえて、地域の産業に関する調査研究への協力も行い、地域の人々とつながっている。

(1) 地域の子どもへ向けた取組

① スギのクリスマスツリー配布

当署は毎年 12 月に大館市の幼稚園や保育所へ、クリスマスツリー用としてスギ間伐材の頂端をプレゼントしている。これは大館北秋田森林組合とタイアップして行っているイベントで、平成 28 年度で 12 年目になる。

ツリーを届ける際には職員も子どもたちと一緒に飾り付けを手伝うなどして交流を行っている（写真 1）。このイベントで地域の木である秋田杉を子どもたちに身近に感じてもらいたいと考えている。配布先からは「子どもたちが本物のスギに触れられる機会となっていて、ありがたい」という声をいただいている。こうしたイベントは、地域の新聞に取り上



写真 1 ツリーの配布の様子

げられるなど、署の行っている取組として知られている。

② 森林教室

当署は、管内の小学校の依頼に応じて森林教室を開催している。

ア. 鷹巣南小学校

北秋田市立鷹巣南小学校の育林教室は、統合した竜森小学校の授業を引き継いだもので、60 年以上もの伝統がある。この教室は「育林」という名前が付けられているように、「地域の人々が森林を守り育ててきた文化を学ぶ」という目標で行われている。

教室は春・秋・冬の年 3 回行われ（写真 2）、当署から職員を派遣し、児童へ森林のはたらきや大切さについて伝えている。また、小学校の学習林で行うスギ苗の植樹や観察についても指導している。児童は、年間を通じた学習でスギの成長を実感することができ、身近な森林について興味を深め、木を育ててきた地域の文化を学んでいる。



春

スギの植樹



秋

スギの観察



冬

「かんじき」をはいてスギの観察

写真 2 鷹巣南小学校の育林教室の様子

イ. 大湯小学校

鹿角市立大湯小学校でも、依頼に応じて毎年、森林教室を開催している（写真 3）。ここでも、職員が講話を行い、森林の大切さや林業について児童にわかりやすく伝えている。くわえて、植樹や樹高・胸高直径の測定を行うことで樹木とふれあい、児童に森林を身近に感じてもらっている。



植樹体験



樹高や胸高直径の測定体験



写真 3 大湯小学校の森林教室の様子

これらの森林教室について、児童は様々な感想を寄せている。「初めての植樹や樹木の測定体験が面白かった」、「樹木や森林について興味を持った」といった感想が多くあった。このことから、森林教室によって児童の森林についての関心が高まったことがうかがえる。さらに、このような活動は児童が地域の自然の豊かさや文化についても意識するきっかけにもなっている。

③ 職場体験学習

小学校における森林教室は長年続けてきたが、平成 28 年度は、中学生への職場体験学習も行った（写真 4）。大館市立田代中学校より依頼があり、2 日間にわたって、2 年生 6 名を受け入れた。

森林や自然に親しみをもってもらうことが目的の森林教室に対して、この体験学習では、国有林での仕事や林業という仕事について知ってもらえるようなプログラムを作成した。

はじめに、国有林内の木材の生産現場の見学を行った。そこでは、間伐の必要性や、使用する機械について説明を行うとともに、請負業者に協力を願い、チェーンソーでの伐倒や、高性能林業機械による作業を見学した。その後、平滝自然観察教育林に移動し、コンパスを用い、あらかじめ木杭を打ち込み設定していた区域の測量を行った。

2 日目は、樹木の調査の体験として、自然観察教育林において、ブルーメライスや輪尺を用いて樹高や胸高直径の測定を行った。その後、森林事務所において、計測データの整理といった事務所での業務の体験のほか、管内の森林や管理の仕組みなどを説明し、森林管理署の仕事について理解を深めてもらった。最後には、質疑応答として生徒からの様々な質問に答えた。

職場体験学習を終えて、生徒からは「林業の現場や測量など、知らなかったことをたくさん学ぶことができた」、「職場のチームワークを感じた」といった感想が寄せられた。とくに、普段見ることができない林業の現場は生徒たちにとって強く印象に残った様子であった。

2 日間の学習を通して、森林管理署の仕事の一部を知ってもらうことができた。また、地域の仕事の一つとしての林業について知るきっかけを作ることができた。こうした取組は、地域の林業事業体にとっても意義があると考えられる。



木材生産現場の見学



測量体験



樹木の調査

写真 4 職場体験学習の様子

(2) 地域の人々とのつながり

当署は平成 12 年に大館自然の会と「ふれあいの森」協定を結び、国有林の広葉樹伐採跡地に「テロロの森」を設定している（テロロはアカショウビンの地方名）。これは秋田県内で最初のふれあいの森設定箇所である。

ここでは、毎年、会の主催によって下刈り、ブナの植樹や自然観察等のイベントが積極的に行われている。とくに、植樹のイベントは市内外から多くの人が訪れる活気のあるイベントとなっており、子どもから大人までが自然に親しむことができる場となっている（写真 5）。

この植樹イベントには職員も参加し、森林管理署について参加者にアピールし、また、植樹の指導などの協力を行っている。



写真 5 テロロの森におけるブナ植樹イベントの様子

(3) 地域の産業とのつながり

地域の産業振興にも協力を行っている。

① 「曲げわっぱの森」

当署のある大館市の伝統工芸品、大館曲げわっぱは、従来、天然秋田杉を原材料に作られていた。しかし、その資源の減少のため、国有林からの計画的な供給が停止することが発表された。これを受け、地元では曲げわっぱ原材料確保への不安が広がり、将来の原材料の確保が強く望まれた。

そこで、当署は平成 15 年に大館曲げわっぱ協同組合、大館商工会議所および大館市と協定を結び、スギ人工林を「曲げわっぱの森」として設定した（「木の文化を支える森」）（写真 6）。ここで、天然秋田杉にかわる曲げわっぱの材料として、高齢級人工杉の育成を目指している。

このような連携の中、平成 24 年には国有林からの天然杉の計画的供給が終了し、翌年からは高齢級人工杉のみを供給している。



写真 6 「曲げわっぱの森」

② 「大館曲げわっぱ適材木選別調査協定」

原材料確保に向けた取組にくわえ、曲げわっぱ用材に関する調査研究にも協力している。当署は平成 27 年に大館曲げわっぱ協同組合、秋田県立大学木材高度加工研究所および大館市と「大館曲げわっぱ適材木選別調査協定」を締結している（図 2）。

これは、天然秋田杉に比べ曲げにくい木の割合が多い人工杉の中から、曲げわっぱ制作に適した曲げやすい木を効率的に選別するための研究を目的としている。当署はこの調査研究のために国有林をフィールドとして提供している。また、職員は実際の調査にも協力を行っている。

当署は産学官と協力を行い、地域の産業の振興にも貢献したいと考えている。

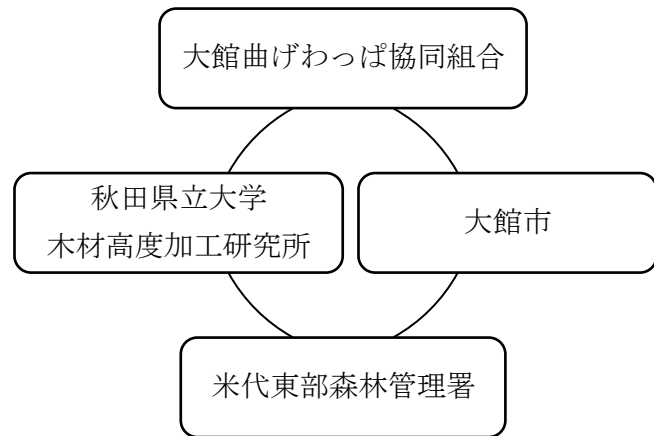


図 2 産学官による大館曲げわっぱ適材木選別調査協定

3. まとめ

以上のように、当署では、地域の要請に応じて、長年にわたって国有林のフィールドや、森林とのふれあいの機会を提供している。こうした取組によって、子どもから大人まで、様々な世代に森林や林業を身近に感じてもらっている。くわえて、地域の伝統産業の振興についても、各所と連携しながら協力を行い、地域とのつながりを深めている。

これからも、地域にとってますます身近な森林管理署となるように、積極的に地域の要請に応えていきたいと考えている。